

令和5年度第4回三次市総合教育会議

- 1 日 時 令和6年3月18日(月)
開会 16時05分
閉会 16時45分
- 2 会 場 三次市役所6階603会議室
- 3 出席構成員
市 長 福岡 誠志
教 育 長 迫田 隆範
教 育 委 員 小根森 直子
教 育 委 員 深水 顕真
教 育 委 員 井岡 直美
教 育 委 員 藤井 皇治郎
- 4 出席職員等
(教育委員会)
教 育 次 長 宮脇 有子
教育委員会事務局付課長 藤本 裕佳里
学校教育課長 中村 徳子
文化と学びの課長 山西 正晃
文化と学びの課係長 阿部 晶子
(事務局)
経営企画部長 笹岡 潔史
企画調整課長 渡部 真二
企画調整課係長 加藤 泰
企画調整課主任 森藤 雄亮
- 5 協議事項
三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の策定 について

(事務局)

開会に先立ち、総合教育会議は原則公開とされているが、今回の会議では傍聴希望者はいないことをご報告する。

それでは只今から、令和5年度第4回三次市総合教育会議を開会する。

総合教育会議は、市長、教育長及び教育委員で構成される。本日は、全構成員の出席により開催する。

開会にあたり、福岡市長から挨拶を申し上げる。

(福岡市長)

前回の総合教育会議に引き続き、構成員全員の出席をいただきお礼申し上げます。

春の予感を感じられる気候が続いているが、本日の十日市小学校をはじめ、市内の各学校では卒業式が開催されるなど、地域で新年度に向けた準備が始まってきている。

さて、3月15日は三次市議会3月定例会の最終日だった。第3次三次市総合計画を初めとする54議案について無事に可決いただき、4月1日から順調にスタートを切れる状況になった。

その中で、教育大綱及び教育振興基本計画については、これまで構成員の皆さんから様々な意見をいただき、今回最終的な審議をしていただく。幾度となく議論を重ねていただいたことに対して、この場を借りて感謝申し上げます。

第3次三次市総合計画で10年後のありたい姿を描くということとあわせて、教育の面で、教育大綱及び教育振興基本計画はたいへん重要な部分を占めていると認識している。今後、さらに激動の時代変革が予想される中、ひとつづくりは地域づくりの柱の1つであるため、ひとつづくりに関わっていただくような取組、あるいは、子どもたちが今後、自分の能力を最大限発揮できるような取組につなげていきたいと考えている。

本日も、是非とも忌憚のない意見をいただくことをお願い申し上げ、開会の挨拶に代えさせていただきます。

(事務局)

それでは協議事項に移る。ここからの進行は議長である市長にお願いする。

(福岡市長)

それでは、協議事項の「三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の策定」について協議を行いたい。このことについて、事務局より説明をお願いする。

(教育委員会)

教育委員会事務局の方から、三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画(案)について説明をさせていただく。これまでの議論の中で、計画の構成や計画期間については既に説明済みであるため、時間の都合上割愛させていただく。

2月に開催した第3回総合教育会議以降に修正した部分は、資料「修正箇所一覧」に掲載している。また、2月16日から3月8日までパブリックコメントを募集した結果、お1人から2件、意見をいただいた。意見の内容と、意見に対する教育委員会の考え方を資料「『(仮称)三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画(素案)』に関するご意見とそれに対する三次市教育委員会の考え方」にまとめているのでご覧いただきたい。

なお、これまでの策定の経過については、資料「策定の経過」にまとめている。内部の策定委員会を2回、策定懇話会を3回開催し、懇話会から1月25日に意見書をいただいた。その後、教育委員会会議において3回、総合教育会議においても2回議論していただき、今回「みよし学びの共創プラン(三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画)(案)」として提出している。

なお、「みよし学びの共創プラン(三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画)(案)」の冒頭に、「はじめに」として、市長と教育長の連名でこの計画に対する思いを掲載している。

説明は以上である。ご確認いただき、ご審議いただきたい。

(福岡市長)

教育委員会事務局から説明があったように、前回からさらにブラッシュアップした資料となっていることがわかる。

私の方からも、「三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画」についての思いを申し上げる。

この「三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画」をもとに、主体的、創造的に持続可能な三次を実現するひとづくりによる中長期的な教育振興を着実に進めていきたい。前回の総合教育会議でも発言したが、新年度から新たに「教育企画課」を設置するなど、推進体制も整えながら、「みよし結芽人育成事業」の推進や教育政策研究チームを設立する中で、小中学校の適正配置、三次小学校・十日市小学校等の改築など、重点課題の確実な解決に向け取組を強化していく。

その一環として、取組を強力に推進するため、島根県海士町で地域と学校が連携した教育の魅力づくりに取り組まれていた豊田庄吾氏を職員として招聘する。これまでの豊田氏の知見と人脈を生かし、教育振興はもちろんのこと、情報発信や産学官連携など、本市のまちづくりに新たな風を吹き込む存在としての活躍を期待している。また、教育政策研究チームの構成員としても豊田氏に参加して

いただくことを考えており、教育面において、「三次らしさ」を全面に出したコアカリキュラム等を検討していただきながら、三次の魅力向上につなげていきたい。

最後に、三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の総称についてご提案させていただく。総称としては、第3次三次市総合計画の副題「みよし未来共創ビジョン」と合わせて、「みよし学びの共創プラン」としたい。このことについては、後ほど、皆さんの思いもお伺いしたい。

それでは、続いて教育長からも発言をお願いしたい。

(迫田教育長)

私の方からも、教育大綱及び教育振興基本計画に関して述べさせていただく。

今年度5月の第1回総合教育会議で、教育大綱と教育振興基本計画の一体的な策定を行うことを決定した。それ以降、教育委員会事務局や庁内で組織する策定委員会、あるいは、多様な分野からの委員で構成される策定懇話会の方でも、様々な意見をいただいた。それらの意見を踏まえながら、教育委員会会議や総合教育会議で協議を重ねてきたと認識している。本市を取り巻く状況が極めて先行き不透明である中、多様な観点から目指す方向性を、次期教育大綱・教育振興基本計画（案）で明らかにすることができたと考えている。

また、三次市議会3月定例会で、第3次三次市総合計画の議決をいただいた。総合計画と、教育大綱及び教育振興基本計画が一体的に繋がり、連鎖するものとして策定をすることができたということは、本市にとっても、本市の教育にとっても、非常に大きな価値があると考えている。

今後は、行政と市民が共創し、「人と想いがつながり、未来につなぐまち」という総合計画のめざすまちの姿を実現する担い手となるひとづくりをしっかりと進めていくような施策につなげていきたい。なお、直前に教育委員会会議を開催し、教育振興基本計画の部分については、教育委員の全員の賛成をもって承認された。

次に、先ほどの市長の発言に関して申し上げる。令和6年度からの教育委員会事務局の組織体制については、教育企画課、学校教育課、社会教育課の3課体制になり、計画をより一層推進していくことができるようになった。特に、昨今の人口減少や少子高齢化のことを考えると、多様化する子どもたちの学びに応じた環境づくりを目指し、学校のあり方について早急に具体的な検討を進めていく必要があり、併せて、三次らしい強みを生かした教育内容の創造を強力に進めていく必要があると考える。

豊田庄吾氏の招聘については非常に期待をしている。教育課題の解決に向けて大きな力になっていただけるものと思っており、本市の魅力や特色を繋いで、

本市ならではの教育施策を共に創りあげていきたい。

最後に市長から示していただいた「みよし学びの共創プラン」という総称について申し上げます。総合計画が目指す姿を実現するための具体的な計画の一つがこの教育大綱及び教育振興基本計画だと思うので、この点を踏まえて、総称を「みよし学びの共創プラン」とすることはたいへん相応しいと考える。

(福岡市長)

ただ今、迫田教育長からご発言をいただきましたが、直前の教育委員会会議で教育振興基本計画の部分については了承いただいたということである。重ねて構成員の皆さんにお伺いするが、この「三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画」の案について成案とし、総称を「みよし学びの共創プラン」としたいと思うがよろしいか。

(構成員一同)

— 異議なし —

(福岡市長)

それでは、この内容で策定に向けて進めていきたいと思う。

続いて、各委員の皆さんからも意見、感想等があれば発言をお願いします。

(小根森委員)

この度、三次市教育大綱と三次市教育振興基本計画が一体的に策定されること、そして、その内容が多くの人々の目を通してたいへん細やかに指摘されて出来上がったことについては素晴らしいことだと思う。

そして、「Well-being」、「共創」、「多様性」等への対応について強調されており、進歩的なものになったのではないかと感じている。また、総合計画の副題と共通する「共創」というキーワードを使用した「みよし学びの共創プラン」という総称は、たいへん的確なものであると思う。

教育政策研究チームを立ち上げ、豊田氏を招聘するということについては、私も期待している。これからは、このことについて市民の皆さんに周知し、理解してもらおう段階に入ってくると思うが、私は中学生や小学校の高学年の子どもたちにも読んでもらい、自分たちがどんな学びをしていくのかをしっかりと確認していただきたい。そして、施策の実施については、個別最適な学び、多様性に対応した教育等が内容として大きく取り上げられている。学校に行きにくい子どもたちの学びの場や、繰り返しの指導が必要な子どもへの支援、逆に、学習の習得が早くさらに深く学ぼうとする子どもたちへの支援、そして、外国人の子ども

たちに対しての日本語指導などもたいへん大切だと思う。しかし、このようなことを学校だけでやっていくのは限界がある。そのため、現在取り組んでいるコミュニティ・スクール等で地域の方の手助けが必要になってくるのではないかと考えている。今、地域の中で教育に関わる様々な団体が活動している。そのような団体の皆さんがコミュニケーションをとり合い、特徴的な取組を行なっていけば、本当に良い教育の場ができるのではないかと思う。

三次市では以前、子どもたちに日本一の英語力をつけるという目標を立てていたことがある。しかし、今では子どもたちの英語力が心配な状態になっている。英語に関しては、保育所や幼稚園などで英語の音楽を聞かせる程度で良いと思うが、とにかく幼児期から英語に触れ合う環境づくりやイベントを実施するなどして、地域全体で英語を楽しむ雰囲気づくりに取り組んでいただきたい。

最後に、子どもたちは私たちが思っている以上に力を持っている。いろいろ与えて行動を促せば、様々なことができるかと思う。三次の行事に子どもたちを参加させて、様々な役割を与え、子どもと大人が一緒になって三次を盛り上げていくことができれば良いと思う。

(深水委員)

今回の第4回総合教育会議は、「みよし学びの共創プラン」完成の会議でなく、スタートの会議である。この教育大綱及び教育振興基本計画は、上位の計画である三次市総合計画や文部科学省等の指針をどのように実現するかという点において、どちらも非常によく練り上げられており、三次市の教育の基礎を作っていくうえで欠かすことのできないものになったかと思っている。教育委員会会議でも、非常に細かい言葉にこだわって議論を重ね、中には厳しい意見もあったと思うが、それを事務局職員の皆さんが上手にまとめ、形にいただいた。このことについて、まず感謝を申し上げる。

「みよし学びの共創プラン」の出発点として、次の段階にステップアップするには逆の発想が必要になってくる。具体的に申し上げますと、この「みよし学びの共創プラン」を基にして、今度は上位の計画にどのような教育が影響を与えていくことができるかという考え方である。三次市の魅力を学ぶだけではなく、次の段階として、教育自体が魅力となっていくような三次市のまちづくりができるのではないだろうかと思っている。先ほどの市長や教育長の発言にもあったが、三次の魅力になるような教育の実現を是非お願いしたい。

また、先ほど小根森委員から発言があったが、三次市では以前、日本一の英語教育を目標に掲げていたことがあった。子どもにとっては、まさにこれが1つの目標になると思うので、「日本一」というワードについては、はばかることなく、しっかり謳っていただき、それを目標に、魅力ある教育環境をつくっていただき

たい。また、英語の他にも、例えば、情報教育にも同様のことが言える。プログラミング等は地方であるからといって決して不利になるわけではない。さらには、以前の総合教育会議で申し上げたように、例えば、ジェンダー問題や多民族・多宗教が、今までとは違った次元で教育やコミュニティの中に入ってきている。それらにどう対応するかという点において、多文化教育といったことも、日本一に向けての1つのテーマになってくる。

以上のことを、魅力のある三次市の教育をつくる「みよし学びの共創プラン」の足がかりとしていただき、取り組んでもらいたい。

(井岡委員)

「みよし学びの共創プラン」については、非常に良く練られており、かつ、コンパクトでわかりやすい内容になっているというのが正直な感想である。

私からは、「みよし学びの共創プラン」策定にあたっての感想を述べさせてもらいたい。

広報みよし3月号に、中学生まちづくり作文の優秀作品が掲載されていたが、その内容を見て非常に感動した。子どもたちは既に自分が住む町の良さに気づいており、どうすればこの先の高齢化社会に打ち勝つような良いまちにできるかを考え、自分なりに行動し、伝統文化や自然を大切にしながら、住んでみたいまちにしていきたいという思いを持っている。これはまさに、市長が目指している目標の土台ができていないかと思う。だからこそ、もっと大人の方が子どもに歩み寄って理解し、協力していく必要があるということを市民が共通認識として持ち、「未来を創る当事者」を育てるということにつながれば良いと思う。

次に、教育政策研究チームに期待することについて申し上げる。教育というのは、結果がすぐに表れない。子どもたちに総合的な学力を身に付けさせるためには、地道な努力が必要だと思う。例えば、教員の指導力、ひいては、学校の教育力の向上につながるような取り組みをさらに強化していただきたい。子どもたちを取り巻く環境は多岐にわたっており、すべての子どもに教育が行きわたるような取り組みを実施していただきたい。

(藤井委員)

三次市全地域でコミュニティ・スクールが整備されていくことについては非常に期待しており、どのように関わっていけるのか楽しみにしている。十日市自治連合会の方が十日市中学校区の活動に関わられており、活動する中で、まだまだ不透明なことが多く、どうしたら良いのか分からないといった質問をいただく。私もできる範囲で説明をしているが、今回策定する「みよし学びの共創プラ

ン」のような大きな指針を提示することによって、三次市の方向性や今後の将来性がわかりやすくなり、非常に効果的であると思う。

また近年は特に、「Well-being」や「リベラルアーツ」等の考え方により、個々が生きる力を養っていかねばならない時代に突入したと強く感じている。三次市も漏れることなく、子どもたちがしっかり自立をし、生きる力を育んでいけるような取り組みを実施していただきたい。

(福岡市長)

構成員の皆さんに今後の期待値も含めてご発言をいただいた。それぞれ意見をいただいたことが、今後、実践として結果に結びつくように、引き続き取り組んでいく。先ほど、深水委員からの発言にもあったとおり、今日が「みよし学びの共創プラン」のスタートであり、教育委員会と意識を統一して、全体で取り組んでいきたい。その中で重要なことは、この「みよし学びの共創プラン」を多くの子どもたちや保護者、あるいは地域の皆さんと共感をしていくことであると考えている。教育委員会をはじめ、三次市として、あらゆる機会を通じながらしっかりと発信をしていく中で、共感を得られるように取り組んでいきたい。

また、豊田氏のことについては議会でも何度も質問があり、記者会見の中でも豊田さんに期待することについて説明を求められ、豊田氏への期待値の高さを感じている。平成17年、豊田氏にはキャリア教育の講師を養成する立場として三次市の教育委員会、あるいは小学校に関わっていただいていた。私も、当時は青年会議所のメンバーの1人として、豊田さんにいろいろとご指導いただいた。三次市にゆかりがあり、本人の人柄や、海士町での様々な取組の成果を踏まえれば、三次市の取組、特に教育政策研究チームに参加し、中心になっていただくということについては本当に心強い限りである。豊田氏に様々な形で地域に関わっていただき、三次らしい教育政策の推進ができるようにしっかりとコミュニケーションをとっていきたい。

コミュニティ・スクール1つを例にとっても、先ほど井岡委員からも発言があったとおり、子どもたちが地域の魅力を発見したり、あるいは地域課題の解決策を提案するなど、地域に対しての純粋な思いが育まれてきており、徐々にコミュニティ・スクールの取組が形になってきている。コミュニティ・スクールには多種多様な形が存在する。三次市の教育自体が三次の魅力になるよう取り組んでほしいという意見もあったが、教育大綱に掲げる基本理念である、「高い志をもち 夢や目標に向けて挑戦し 自立を図るとともに 多様な共創により 住み続けたいまち三次を実現する 心豊かで たくましい ひとづくり」につながるよう、引き続き教育委員の皆さんにはご理解とご協力等をお願いしたい。

それでは、次第「3 その他」について、事務局、あるいは教育委員会から連

絡事項があればお願いします。

(教育委員会)

教育委員会事務局では、今後「みよし学びの共創プラン」を周知していくにあたり、概要版の作成を検討している。イメージとしては、手元に持ちながら見ることができるものが良いのではないかとということで、A4サイズ両面仕様で考えている。添付している資料から、もう少しわかりやすく親しみやすいデザインにしていきたいと思っている。また、「みよし学びの共創プラン」についてはホームページ等でも順次公開し、製本業務についても、公開に向けて引き続き取り組んでいく。

(福岡市長)

それでは、私の進行はここまでとし、事務局へお返しする。

(事務局)

以上をもって、令和5年度第4回三次市総合教育会議を終了する。